第17講

課題文型の対処法（2）

読解問題の基本

チャプター1

レクチャー

ポイント

　課題文型の設問の一つに（　　　　　　　　　　　）問題がある。
（　　　　　　　　　　　）とは文章の（　　　　　　　　　　　）説明が求められるものである。
　出題の典型的なパターンは「ここはどういうことか」という（　　　　　　　　　　　）説明と「なぜそうなるのか」という（　　　　　　　　　　　）の2つである。
　いずれも該当する部分を（　　　　　　　　　　　）拾い、まとめることが求められる。

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター2

問題およびヒント①

問題を見てみよう

次の文を読んで設問に答えなさい。
設問　下線部(1)について、著者は男性と女性の成熟度に関して、どのように考えているのか。100字以内で述べなさい。
（兵庫医科大学　医学部　医学科　推薦　2016）

夜道ゆく君と手と手が触れ合ふたび我は清くも醜くもなる
栗木京子『水惑星』

「また電話しろよ」「待ってろ」いつもいつも命令形で愛を言う君
俵　万智『サラダ記念日』

女性の側が男性にどう反応するか、その例を二つ。栗木京子は、夜道を連れ立って歩いているところでしょう。まだはっきりとした恋人とも言えない淡い恋心。並んで歩いているとふと手が触れることがある。驚いて引っ込めたりもするのでしょうが、そんな「手と手が触れ合ふたび」、自分は「清くも醜くなる」と詠います。相手の反応によって、自分はどんなふうにも染め分けられてしまうといった告白でしょうか。あなたがやさしければ清い女になれるけれど、意地悪をされたり裏切られたら、きっと醜い女になってしまうだろう、と言っているようです。実生活の具体も、苦しさもまだはるか遠くにある時代の恋の思いでしょう。

俵万智の一首では、相手の男性の性急さをやわらかくたしなめるように受け容れているという歌になっています。男は、自らの優位を示そうとするかのように、「また電話しろよ」とか、「待ってろ」とか、「いつもいつも命令形で」相手にものを言う。

そうだったよなあ、と私自身を振り返って苦笑いするしかありませんが、若い男は恋人に対して自信がない。その裏返しとして、「命令形で」偉そうにものを言いたがる。突っ張っているのです。そんなことは同じ年頃の女性ならとうにわかっているわけで、「命令形で」言っているのは、愛の告白なのよねと軽く受け流しつつ、従っているのでしょう。偉そうにしないでよ、とは言わない。(1)成熟度がそもそも違うのです。俵万智は、軽い口語文脈で一世を風靡した歌人という位置づけがなされていますが、若いだけでなく、たしかにものがよく見えていた女性であったと、歌を読みつつ思うことが多くあります。

一永田和宏著「人生の節目で読んでほしい短歌」より引用

生徒メモ欄

教員記入欄

解答案をつくってみよう

100

（　　　　字）

自己評価表

答案が完成したら、以下表を用いて自己評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター3

答案例①

要点

①女性は、男性の反応を（　　　）し、自分を（　　　　　）たり、従ったりする
②男性は、女性に対して（　　　）がなかったり、（　　　　　）りして、女性のように相手の反応を（　　　）したり、自分を（　　　　　）たり、従ったりはしない

　男性は自らの優位を示すために命令形で女
性にものをいうことがあるが、女性に対して
の自信のなさの裏返しである。女性は、そう
した男性のことはわかっていて、その反応を
受容し、自分を染め分けたり、従ったりする。100

（100字）

　男性は女性に対し自らの優位を示すように
命令形で偉そうに言う。つまり、自信がなく
威張っているのだ。女性はおおらかに受け流
し、男性の性急さを、柔らかく、たしなめる
ように受け入れることができる大人である。100

（100字）

生徒メモ欄

教員記入欄

自己評価表

答案が完成したら、以下表を用いて自己評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター4

問題およびヒント②

問題を見てみよう

次の文章を読んで設問に答えなさい。
設問　傍線部の「この政策の是非を論じるつもりは、ありません」について、筆者は何故ここで是非を論じるつもりはないなどと言っているのでしょう。文中の言葉を用いながら説明しなさい（一〇〇字以上一五〇字以内）。

（中京大学　総合政策学部　総合政策学科　推薦　2018）

日本で近代的な教育制度が整ったのは、明治時代でした。明治政府は、近代国家建設のために世界各国の制度を取り入れようとしました。教育はフランスの制度を取り入れ、「国民各自が身を立て、智を開き、産を作るための学問」といった近代市民的な教育論に則りました。封建的な江戸時代からすると、「国民各自が身を立て」るという高い理想を掲げたことは、画期的であったと考えます。

しかし、明治の半ばを過ぎると、教育政策は当初のものとは大きく異なっていき、国家主義的な要素が強くなっていきます。当時の日本は、欧米列強による東アジア諸国の占領・侵略の危機が迫る中で、近代的な国家を確立しなければ、植民地化されてしまうという危機感が強くありました。政府としては、「富国強兵」「殖産興業」を迅速に進める必要から、国家の発展に寄与する人材の育成を教育に求めたのでしょう。

この政策の是非を論じるつもりは、ありません。何故なら、教育とはもともと、社会の要請を強く反映するものだからです。明治の人々が当時の政界情勢の中、どうすれば日本が生き残っていけるかを、真剣に考えた上での政策であったことは間違いないと思います。ただ、結果的に教育の現場では、「自分の意見や考えを主張する」ことよりも、「指示されたことを実行する」ことの方が重視されることとなりました。

第二次世界大戦後は、マッカーサーによる五大改革の指令の一つとして、教育を通じて民主主義が日本に根づくよう、教育制度の自由主義的改革が要求されました。教育から国家主義的な色彩は追放されていき、個人の自由や権利の追及を重視する方針が、教育の中に盛り込まれたのです。それでは、戦後の教育がどうなっていったのか、この点に関して述べます。

戦後まもなくの日本は本当に貧しく、焼け跡からどのように復興していくのかが、喫緊の課題であったことは間違いありません。生きていくことに精一杯の時代だったのです。そして復興が進む中、ベビーブームが到来し、子供がとても多く競争が激しい時代になっていきます。そんな時代に求められたのは、「自分の意見や考えを主張する」ことではないでしょう。競争社会においては、「指示されたことを実行する」ことで、「よりよいポジション」を獲得することが、先決だったと思います。「クラスの中でよりよい成績」「よりよい高校への入学」「よりよい大学への入学」「よりよい就職」という具合に、常に人よりも相対的に上にいることで、何らかのメリットがある、という風潮が当時はありました。個人の自由や権利の追求は、あくまで他人との競争の中で認められるものだったのです。戦後のそのような風潮は、バブル崩壊まで続き

ました。景気変動はあったものの、経済は右肩上がりで、「頑張れば、今日より明日の方が、よりよい日本になる」といった空気もありました。 1960年代の高度成長期に生まれ育った私も、この感覚は強く持っていました。

また、戦後日本をリードしてきたのは、「日本株式会社」とも称される民間企業群であり、それを支えた官僚であったことは間違いないでしょう。両者は、二人三脚で動いてきました。成長をあてにした戦略をトップが立て、それを実現する役割を担ったサラリーマンや役人は、「指示されたことを実行する」ことで、その組織を円滑に動かしていたのです。

そのような社会情勢において、重視されたのは、やはり「学歴」でした。受験の際、膨大な知識を、粘り強く努力し要領よく頭に詰め込み、結果を出してきた人間は、まさに「指示されたことを実行する」人間として評価しやすかったのでしょう。大学で学んできたことより、受験勉強の結果である大学名が、重視されていたのです。その流れはバブル終焉まで続きました。私が教員になったのは、バブル前夜の1985年です。当時はまだ経済的には右肩上がりの神話が存在し、受験の競争も大変激しい時代でした。

教師になったばかりの私は、生徒たちに、「大学受験があるから、今は大変でも我慢して勉強を頑張るしかない」といった言葉をよく使っていたことを思い出します。そして、その言葉がかなり効果的であり、生徒たちには逆らいにくいものがあったのも、事実です。思い起こすと、戦後からバブル終焉までに出来上がった、高校受験・大学受験の厳しい状況が、受験を頂点とした教育の流れを作ってきたことが実感されます。

自分自身も、当時高校生の担任をする機会が多かったのですが、生徒が大学に進学して何を学ぶのかより、どの大学に進学するのかを常に念頭において受験対策をしていたことを思い出します。この時期は、私だけでなく多くの教師が、大学受験をピラミッドの頂点とした教育をしていたことでしょう。

（出典　石川一郎『2020年からの教師問題』ベスト新書、二〇一七年、出題の都合上、本文の一部を改めた）

生徒メモ欄

教員記入欄

解答案をつくってみよう

（　　　　字）

自己評価表

答案が完成したら、以下表を用いて自己評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター5

答案例②

要点

①明治政府が（　　　　　　）のために教育は（　　　　）の制度を取り入れ、近代市民的な教育論に則った
②しかし、明治の半ば以降、（　　　）な国家を確立しなければ（　　　　）されてしまうという危機感から、（　　　　）な要素が強くなった
③（このように）教育はもともと（　　）の要請を強く反映するものだから

　明治政府が近代国家建設のためにフランスの教育制度を取り入れ、近代市民の教育論に則った。しかし、明治の半ば以降、近代的な国家を確立しなければ植民地化されてしまうという危機感から、国家主義的な要素が強くなった。このように教育はもともと社会の要請を強く反映するものだから。

（134字）

　教育はもともと、社会の要請を強く反映するものであり、明治の人々が当時の世界情勢の中、どうすれば日本が生き残っていけるかを考えたうえでの政策であったことは間違いないからである。富国強兵を進めなければ、欧米から植民地化されてしまうという危機感があり、当時の政府が行った教育は仕方のない事である。

（146字）

生徒メモ欄

教員記入欄

自己評価表

答案が完成したら、以下表を用いて自己評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター6

レベルアップのための読書案内

本講で学んだことをブラッシュアップするために、
おすすめ書籍情報や本の読み方を学びましょう。

講義メモ欄

生徒メモ欄

教員記入欄